

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会

学校図書館部

令和元年5月24日

No. 1

## 読書体験の意義

岡崎市現職研修委員会学校図書館部  
部長 東海中学校長 中村公治

5月3日から数回にわけて、中日新聞は、上皇后美智子様が1998年9月、インド・ニューデリーであった国際児童図書評議会の世界大会で基調講演をされた内容を掲載していました。美智子様が、小学生のころの疎開先での読書体験を振り返りながら、読書の価値について述べていらっしゃいます。全文を拝読し、私は深く感銘を受けました。そのお言葉の最後の方の一部分を転載します。

今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょうか。

何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る青年期の読書のための基礎を作ってくれました。

それはある時には私に根っこを与え、あるときには翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。

読書は私に、悲しみや喜びにつき、思い巡らす機会を与えてくれました。本の中には、さまざまな悲しみが描かれており、私が、自分以外の方がどれほどに深くものを感じ、どれだけ多く傷ついているかを感じかされたのは、本を読むことによってでした。

自分とは比較にならぬ多くの苦しみ、悲しみを経ている子供たちの存在を思いますと、私は、自分の恵まれ、保護されていた子供時代に、なお悲しみはあったということを控えるべきかもしれません。しかしどのような生にも悲しみはあり、一人一人の子供の涙には、それなりの重さがあります。私が、自分の小さな悲しみの中で、本の中に喜びを見出せたことは恩恵でした。本の中で人生の悲しみを知ることが、自分の人生に幾ばくかの厚みを加え、他者への思いを深めますが、本の中で、過去現在の作家の創作の源となった喜びに触れることは、読む者に生きる喜びを与え、失意の時に生きようとする希望を取り戻させ、再び飛翔する翼をととのえさせます。悲しみの多いこの世を子供たちが生き続けるためには、悲しみに耐える心が養われると共に、喜びを敏感に感じ取る心、また、喜びに向かって伸びようとする心が養われることが大切だと思います。

そして、最後にもう一つ、本への感謝をこめてつけ加えます。読書は、人生のすべてが、決して単純ではないことを教えてくれました。私たちは、複雑さに耐えて生きていかなければならないということ。人と人の関係においても。国と国との関係においても。

教育基本法の第1条には、教育の目的を「人格の完成」と記されています。人格の完成において、読書の果たす役割の大きさを改めて認識させられます。子供たちが本に親しみ、読書を習慣化するよう導くことは、教育の目的に直結する教育活動であると言えます。今年度も、多くの先生方が地道な実践を重ねてくださることを心から期待しています。

## 豊かな心情を培い、主体的に学ぶ力を育てる

### (1) 「読書の楽しさを知り、進んで読む態度を育てる」

- ・読書に対する興味を誘発する手だてを工夫し、読書意欲の高揚を図る。
- ・読書の機会を意図的に設けて、その習慣化を図る。

### (2) 「情報・メディアを活用する能力と自ら学ぶ意欲を育てる」

- ・読書・メディアを正しく活用する方法を身に付けさせるために、年間指導計画に基づき、学校図書館の利用指導を進める。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、情報・メディアを積極的に活用した教育活動の展開を図る。
- ・学ぶ意欲を喚起する資料の整備・充実を図る。



## 学校の図書活動

「もっとたくさんの人に図書室を利用してほしい」  
「いろいろな本に出会い、本の世界を味わってほしい」  
そんな思いをこめて、額田中学校では『読書の旅』という図書館だよりを発行しています。おすすめの本を紹介したり、図書室に置いてほしい本のアンケートを取ったり、貸し出しランキングを掲載したりします。図書館だよりを配付するようになって、来館者数が増えました。次は、本の帯を使った魅力ある展示を計画中です。



## 図書館部紹介

部長	中村 公治 (東海中)
	近藤 嗣郎 (常磐東小)
	清松 治子 (矢作東小)
指導員	豊永 晶子 (岩津中)
世話係	松本 友子 (大樹寺小)
	奥出 礼 (美合小)
	鈴木 由佳 (矢作西小)
	鈴木 信帆 (北野小)
	白形 奈穂 (北中)
	石川 俊之 (翔南中)

- ◎本年度、愛知県学校図書館研究大会が、8月23日(金)に、名古屋学院大学で行われます。多くの先生方の参加を期待しております。
- ◎本年度の岡崎市教育研究大会は、8月29日(木)です。今年も多くの実践レポートを発表していただき、皆さんとともに図書館教育について考えていきたいです。

## 2019年 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書を紹介

### <小学校低学年>

- 「魔法ののろいアメ」 作：草野 あきこ 絵：ひがし ちから (PHP研究所)  
 「スタンリーとちいさな火星人」 作：サイモン・ジェームズ 訳：千葉 茂樹 (あすなる書房)  
 「心ってどこにあるのでしょうか？」 作：こんの ひとみ 絵：いもと ようこ (金の星社)  
 「もぐらはすごい」 作：アヤ井 アキコ 監修：川田 伸一郎 (アリス館)

### <小学校中学年>

- 「かみさまにあいたい」 作：当原 珠樹 絵：酒井 以 (ポプラ社)  
 「子ぶたのトリュフ」 文：ヘレン・ピーターズ 絵：エリー・スノードン (さ・え・ら書房)  
 「そうだったのか！しゅんかん図鑑」 訳：もりうち すみこ (小学館)  
 「季節のごちそう ハチごはん」 写真：伊知地 国夫 (ほるぷ出版)  
 写真・文：横塚 眞己人

### <小学校高学年>

- 「ぼくとニケ」 著：片川 優子 (講談社)  
 「かべのむこうになにがある？」 作：ブリッタ・テッケントラップ 訳：風木 一人 (BL出版)  
 「マンザナの風にのせて」 作：ロイス・セパバーン 訳：若林 千鶴 (文研出版)  
 「もうひとつの屋久島から：世界遺産の森が伝えたいこと」 絵：ひだか のり子 (フレーベル館)  
 著：武田 剛

### <中学校>

- 「星の旅人：伊能忠敬と伝説の怪魚」 著：小前 亮 (小峰書店)  
 「ある晴れた夏の朝」 著：小手鞠 るい (偕成社)  
 「サイド・トラック：走るのニガテなぼくのランニング日記」 作：ダイアナ・ハーモン・アシャー (評論社)  
 訳：武富 博子